



落ち着きがない子

～子どもの生活の工夫③～



田中康雄先生の著書『発達障害の子どもの生活の工夫と伸ばす言葉かけ』からシリーズでお届けしている「子どもの生活の工夫」。3回目の今回は「落ち着きがない子」についてです。

◇環境◇動いてもいいというルールにする

じっとしていることがとても難しい子どもがいます。立ち歩いてしまうのは。その子の脳からの、正しい指示によるものなので、厳しく叱られたからといって、じっとできるわけではありません。私たちものがどが渴いてしかたがないのに、「水を飲んではいけません！」と叱られたら、とてもつらくなります。ですので、例えば、食事の場合は、「3口食べたらずし立ち歩いてもいい」など、一定の範囲内でなら動けるルールにするほうが、お家の人も、



その子をじっとさせることに一生懸命にならずに済むのでラクになると思います。子ども本人も動けることで安心でき、再び落ち着いて食べられます。

◇へやる気◇先生のアシスタントになってもらう

じっとしていることが苦手な子どもにはいい意味での特別扱いが必要です。授業中に席から離れてもいい役割をしてもらいましょう。例えば、プリントやノートを配る・集める、黒板の文字を消す、電気をつける・消す、ドアを開ける・閉める、カーテンを開ける・閉める、補助用具を運んでもらうなど、先生のアシスタント

トをしてもらいます。動けることで、子ども本人も安心でき、落ち着いて行動することも増えていきます。そうすると、教室がその子にとって居心地のよい場所になり、気持ちも行動も落ち着いてくると思います。



◇見て解る工夫◇いつ終わるのかを分かりやすく

今していることが、あとどれくらいで終わるのかわからなくて、授業中にそわそわしてしまう子もいます（大人でも、あとどれくらいで終わるのかわからないと不安になったり、イライラしたりしますよね）。人の話をじっと聞くということは、小さな子どもほど難しいものですので、伝え方を工夫してみましよう。「今から3つ、お話をします」と最初に見通しをもたせて話しはじめ、「ひとつめは…ふたつめ



は…。それでは、最後のお話、みつめは…です」と続けて、終わったら「きちんとお話が聞けてえらかったね！では、身体を動かしましょう。」と、歩いたり体操をしたりします。そして、再び席に座って次の活動をします。じっとしていることが難しい子どもにも有効な方法です。

わたし自身、ただ叱っても効果がないとわかっていながら、給食の時間の時、じっと座って食べてくれなかったりすると、注意することが多くなってしまう。田中先生のお話を参考に、どうやったら子どもたちが楽しい園生活を送れるようになるのかを工夫していきたくと改めて考えさせられました。

迎見 妙子



鶏小屋作り



資源回収
秋の芋煮会で
地域交流



親子遠足
東北サファリパーク



家庭訪問
園児と一緒に訪問

